2. 事業の概要と成果

＜本事業は、対象地域における思春期層の妊娠の予防に、2年をかけて貢献することを目指して実施されており、本文書は事業開始1年後の進捗状況及びこれまでの成果を報告するために記すものである。＞

(1) 上位目標の達成度

上位目標：対象地域において思春期の妊娠数減少に貢献する。

事業対象である3か所の保健所の管轄地域における思春期妊婦数は、事業開始前の2016年の237人から2017年の191人(12月末)へ19%減少しており、上位目標の達成に向け、着実な歩みが確認できている。しかし、わずかにではあるが、保健所に報告されていないケースがあることも推察され、その増減にも注視していきたい。

(2) 事業内容

(1) 保健所サービスの内容と提供環境の向上

保健人材の能力強化を図るため、対象地域の保健所(エル・パライソ、サンタ・クルス、アラウカ)に勤務するスタッフを対象に、合計10日間の研修を実施した。保健省のENAPREAH「Estrategia Nacional para La Prevención del Embarazo en Adolescentes de Honduras」(ホンジュラス若年妊娠予防国家戦略/2012)に基づき、REPRO LATINA(国連人口基金の支援を得てブラジルのNGOリプロ・ラティナが開発した教材、メソッド)を活用しながら、下記のテーマに沿って研修を実施した。

- 思春期層の保健所へのリファーマについて
- 今日の思春期層の若者たち、思春期とは、思春期の身体
- 思春期層とのコミュニケーション改善
- セクシュアリティ、性の権利
- ジェンダー、エンパワメント
- 脆弱さ
- 正しい避妊の仕方
- 性・リプロダクティブヘルス教育
- 思春期層に対するカウンセリングの質向上、思春期層の将来設計支援
- 態度と価値観、自尊心
- 持続性のある活動計画

なお本研修には、対象の3か所の保健所より、医師、看護師、心理カウンセラー、検査技師など25人が参加した。上記のテーマについて知識・技術を習得するとともに、各保健所におけるサービス内容を改善するための見直しを図る契機となった。

同研修中に、各保健所のスタッフは、思春期層の妊娠予防を目的とした啓発活動を計画し、保健フェアを実施したり、ポスターの作成・掲示などを行ったりした。また、それまで記録されていなかった思春期層のリプロダクティブヘルスに係るカウンセリング数を記録するようになった。さらに、思春期リプロダクティブヘルスに関する知識と意識についてのベースライン調査(アンケート形式)を思春期層(200名)、保護者(約100名)、教師(約50名)を対象に実施した。本事業(1年次)終了時に同じ項目でエンドライン調査を行い、知識の向上が確認できた。

施設面における改善点として、保健所にピアルームが設置されたことを特筆したい。対象4校(エル・パライソ市アレハンドロ・フローレス校、アルマンド・マルティネス校、イシドロ・ピネダ校、アラウカ市ロサリオ・モリーナ校)の在校生が、リプロダクティブヘルスや思春期の悩みなどについて気軽に相談できるようになった。今年開所したエル・パライソ保健所の思春期クリニックでは、利用促進のプロモーションも兼ね、地元のケーブルテレビやラジオに保健所スタッフや本事業スタッフが出演し、思春期層へ上記テーマについてメッセージを伝えた。

さらに、隣のチョルテカ県では、保健事務所が思春期層への働きかけを積極的に行なっており、エル・パライソ市とアラウカ市の保健所スタッフや教員等、計10人が同県の先例に学ぶため、思春期クリニックや同クリニックと連携している学校を訪問し取り組みを共有した。なお、チョルテカ県保健事務所の思春期クリニックは、本事業の先行案件であるダンリ市におけるリプロダクティブヘルス事業のピアリーダー合同会合に、同事務所スタッフおよび青年海外協力隊員が参加したことから情報共有が始まった。同県への訪問は、他県の取り組みを学習したいというエル・パライソ市やアラウカ市の保健所スタッフの強い要望により実現した。

この訪問を通じて、保健所と学校間の連携の重要性が再確認され、後に保健所スタッフが学校に出向いて研修を行う（出前授業）等の効果が現れた。出前授業では、保健所および思春期クリニックのスタッフがエル・パライソ市内の対象2校やサンタ・クルスの対象1校を訪れて講習を行い、今後も継続的に実施していくことが確認できている。さらに、エル・パライソ保健所には、青年海外協力隊員である助産師が配属されており、本事業が実施する保健所スタッフ研修に参加したり、対象校における研修に参加したりして、その目的と内容を理解していたことから、自身の活動においても青少年に対する性教育の実施や、山間部の妊産婦訪問で思春期リプロダクティブヘルスについて話すなどの相乗効果が確認された。

(2) 学校教師および保護者の理解と協力の促進

学校教師は、思春期層との距離が近く、生徒たちにとって身近な存在である。彼らがリプロダクティブヘルスに関する知識を持っておくことが非常に重要であることから、保健所スタッフへの研修（活動1）と同様のテーマで、事業対象4校の学校教師46人（平均）に対し、合計4日間の研修を実施した。研修前は教師たちもリプロダクティブヘルスの知識はほとんど有しておらず、自身の経験に基づいて生徒たちに助言していたが、研修後は、より自信を持って生徒の相談に応じられるようになった。

また、保護者83人（平均）に対しても合計4日間の研修が実施された。教師と同じく、リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を持っている保護者は少なく、参加者からは思春期の我が子へどのように接するべきか悩んでいたところに、このような研修は貴重な機会であったとの声が多く聞かれた。学校教師や保護者は、普段から保護者会や学校行事の場で協力しているものの、心身共に成長の著しい思春期を迎えている生徒の成長過程に合わせた適切な介入について、リプロダクティブヘルスの知識を持って対応できるようになりつつある。

(3) ピアリーダーの育成

対象4校の教師の協力を得て、生徒の中から合計100人のピアリーダーが選出された。なお、選出にあたっては、①学業成績、②学校生活におけるリーダーシップ、③最終学年ではない（ピアリーダーとして活動継続性が高い）ことなどが考慮された。ピアリーダーに対する合計10日間の研修（平均78人出席）では、先述した「REPRO LATINA」に含まれるリーダー育成の項目を活用して、思春期の心身の成長、セクシュアリティ、ジェンダー、性の権利、エンパワメント、正しい避妊方法に加え、将来設計、自尊心、価値観などをテーマとして取り上げた。また、ピアリーダー研修の後半では、活動1で研修を受けた保健所スタッフが講師を務めたことにより、双方の信頼関係が構築、強化された。

育成されたリーダー達は、校内の他の生徒を相手にピア教育を実施した。人前で話す経験の少なかった生徒たちも、回を重ねるごとに研修手法を身に付け、性に関するデリケートなテーマであっても、他のピアリーダー達と相談しながら、自分たちの世代にとっていかに重要な話であるかを工夫して伝える姿が見られた。また、学校教師や保健所スタッフの協力を得て、思春期層への啓発活動を積極的に行った（下記活動4）。

(4) 思春期層の知識向上のための活動

ピアリーダー、学校教員、保護者、保健所スタッフが協力し、保健フェアの実施、ポスターの作成、少人数によるグループトークの実施など、思春期層の知識向上のための活動を計画した。対象4校では、合計31回の活動が実施され、2,834人の思春期層がリプロダクティブヘルスとそのサービスについて理解を深める機会を持つことができた。活動中、保健所スタッフが直接講習を行ったり、ピアリーダーがパンフレットを配布したりして、リプロダクティブヘルスの重要性を呼びかけた。また、ケーブルテレビやラジオの放送を通じた啓発活動も実施され、思春期層からの電話相談に、本事業スタッフや保健所スタッフが回答するなどの活動も行われた。本事業の対象地域に選ばれたのは、保健所とその周辺地域にある中学・高校であり、山間部に居住する住民への直接的な働きかけは限定的だが、市全域（人口約5万人）に届くケーブルテレビやラジオを通じて、本事業対象地域を超えての啓発が可能となった。実際、対象地域はもちろん、山間部においても視聴者から声をかけられることが多く、啓発効果を確認することができた。

さらに、対象校のピアルームや思春期クリニックにおいて、視覚的教材やパンフレットが準備されており、また必要に応じてカウンセリング後に避妊具を渡すなど、思春期層に対し、リプロダクティブヘルスに関する情報を伝達し、手段を提供できるよう工夫している。

(3) 達成
された成果

事業目標：対象地域において思春期層リプロダクティブヘルスケアを推進する環境が整備される。

【指標1】 対象3つの保健所において、思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリング数が20%増加する。

⇒達成

思春期層に対するカウンセリング数は、2016年の542件から2017年の793件へと46%増加した。事業対象の3つの保健所では、過去において、思春期層に対するリプロダクティブヘルスに特化したカウンセリングのデータを記録していなかったため、本事業スタッフが、保健所の診察記録から家族計画や性感染症による受診者数を参照し、2016年のデータを割り出した。事業開始後(2017年)は、各保健所がカウンセリングの記録を取るようになった。

本事業の活動を通じ、対象校の中学生や近隣の思春期層に対する保健所のカウンセリングサービスが周知されたことが、カウンセリング数の大幅な増加に寄与したものと考えられる。

【指標2】 設置されたピアルームにおいて、思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリングが行われる。

⇒達成

対象4校の校内にピアルームが設置され、思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリングが355件行われた。また、エル・パライソ保健所には、思春期クリニックが開設され、医師、看護師による診察およびカウンセリングが実施されている。また、アレハンドロ・フローレス校では、ピアルームに専属の心理カウンセラーが配置された。ピアルームは、ピアリーダーがピア教育の準備に利用したり、教師からカウンセリングを受けるために生徒が訪れたり活用されている。

成果1：保健所による思春期層へのリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境が向上する。

【指標1-1】 保健所スタッフ25人のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。

⇒達成

研修前と研修後にリプロダクティブヘルスに関する知識を測定するテストを実施したところ、事前テスト(23人)では正答率が50%であったが、事後テスト(22人)では正答率が75%に上昇した。

【指標1-2】 保健所において思春期リプロダクティブヘルスに関する活動計画が策定され、実施される。

⇒達成

対象3保健所で、保健フェアやHIV/AIDS予防フェアが計画され、各保健所で4回ずつ合計12回実施された。活動は、ピアリーダーと協力して実施され、会場を訪れた思春期層へ、リプロダクティブヘルスに関するテーマで講習が実施され、パンフレット等の配布も行われた。

【指標1-3】 エル・パライソ保健所の思春期層専用スペースおよび3箇所のピアルームが、年合計400名の思春期層に利用される。

⇒達成

事業期間中、4ヶ所(対象4校)にピアルームが設置され、一年次の事業終了時までには、思春期層の利用者は474人に上り、エル・パライソ保健所の思春期クリニックの利用者255人と合わせ、合計729名の思春期層に利用された。なお、当初ピアルームは3箇所のみが予定されていたが、教員研修や啓発活動を通して、対象4校すべてからピアルーム設置に対する強い要望が上がったため、教員や心理カウンセラー等の配置を確認し、各校の生徒に対するカウンセリング、そしてピアリーダーの活動拠点として4校への設置が妥当であると判断した。

2017年8月までに全てのピアルームが整備され、同年9月より機能し始めた。ただし、学校は11月中旬から1月まで長期休暇に入ったため、その間、エル・パライソ保健所の思春期クリニックが、アラウカ市の思春期層も積極的に受け入れた。対象4校の教師や保護者は、学校のピアルームを活用しながら、必要に応じて、より専門的な対応が得られる思春期クリニックへのリファーを行っている。

【指標 1-4】 保健所が、ピアリーダー、学校教師、保護者からの相談・紹介を受け入れている。

⇒おおむね達成

保健所がピアリーダーから 10 件、学校教師から 12 件、合計 22 件の相談・紹介を受け入れた。記録されていない相談件数も含めると、実際にはもう少し多いと予想され、今後リファーに係る記録を的確に行い、正確な件数を把握することが重要である。

【指標 1-5】 リプロダクティブヘルスに関するサービスを受けた思春期層の 80%がサービスに満足する。

⇒達成

リプロダクティブヘルスに関するサービスを受けた思春期層 618 人中、73 人にアンケート調査を実施した。その結果、90%の思春期層がサービスに満足していると答えた。アンケート対象者は男子 21 人、女子 52 人で、年齢層は、14 歳以下 48 人、15～18 歳 20 人、19 歳 5 人であった。73 人中 70 人が就学している生徒で、ピアルームにおいて心理カウンセラーを含む教師やピアリーダー、また保健所スタッフよりカウンセリングを受けた。カウンセリングの内容は、性の権利や性感染症、価値観に関するものが多く、次いで、自尊心や人生設計に関するものであった。73 人のうち 25 人（34%）が、保健所へのリファー対象となった。

成果 2: リプロダクティブヘルスについて、学校教師、保護者（PTA）の理解と協力が得られる。

【指標 2-1】 学校教師 50 人が思春期リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を身につける。（テストの正答率が 80%以上。）

⇒達成

学校教師に対し、研修前後にリプロダクティブヘルスに関する知識を測定するテストを実施したところ、事前テスト（49 人）では、正答率が 54%であったが、事後テスト（43 人）では、正答率が 93%に上昇した。

【指標 2-2】 保護者 100 人が思春期リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を身につける。（テストの正答率が 70%以上。）

⇒達成

保護者に対し、研修前後にリプロダクティブヘルスに関する知識を測定するテストを実施したところ、事前テスト（102 人）では、正答率が 48%であったが、事後テストは（72 人）では、正答率が 78%に上昇した。

【指標 2-3】 研修を受けた教師が、適切な時期に保健所へ思春期層を紹介している。

⇒おおむね達成

研修を受けた教師や心理カウンセラーが、思春期クリニックで対応してもらう必要があると判断した生徒 12 人を保健所へ紹介した。活動 2-1 により、思春期リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を身につけた学校教師が、生徒たちに適切に対応し、適宜、思春期クリニックへ紹介している。今後、記録をつけてもらえるよう配慮する。

成果 3: ピアリーダーが育成される。

【指標 3-1】 ピアリーダー100 人の 80%が、思春期リプロダクティブヘルスに関する知識を向上させる。

⇒達成

ピアリーダーに対し、研修前と研修後にリプロダクティブヘルスに関する知識を測定するテストを実施したところ、事前テスト（92 人）では、正答率が 48%であったが、事後テスト（76 人）では、正答率が 85%に上昇した。

【指標 3-2】 ピアリーダーにより策定された活動計画の 80%以上が実施される。

⇒達成

ピアリーダーは、校内や地域の小学校におけるピア教育計画を策定し、計画を 100%実施した。

	<p>また、保健所とも協力して健康フェアに参加し、思春期層に対しリプロダクティブヘルスに関する活動を実施した。</p> <p>【指標 3-3】 ピアリーダーの 80%が活動を継続している。 ⇒未達成 半数程度のリーダーが学校の新学期開始にともなう転校などの理由から、ピアリーダーを退く意向を示した。第 2 期に新たなリーダーを育成し目標達成に努める。</p> <p>【指標 3-4】 ピアリーダーの 80%が、適切な時期に各保健所へ紹介している。 ⇒おおむね達成 アラウカのロサリオ・モリーナ校のピアリーダーが 10 人の生徒を保健所へ紹介した。また、その他の学校においても、ほとんどのリーダーが、リプロダクティブヘルスに関する知識を普段の会話等で友人に紹介する機会が増え、その際には、ピアルームの活用法や思春期クリニックでのサービスについて伝えている。</p> <p>成果 4：思春期層がリプロダクティブヘルスに関する知識を身につける。</p> <p>【指標 4-1】 思春期の青少年約 2,000 人が、学校内外で行われるピア教育、レクリエーション活動、パンフレット配付等によりリプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて理解を深める機会を持つ。 ⇒達成 思春期層の青少年 2,834 人が、学校内外におけるピア教育や啓発活動に参加したり、パンフレットを持ち帰ったりしたことにより、リプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて理解を深める機会を得られた。</p> <p>【指標 4-2】 対象 4 校における 200 人を対象としたリプロダクティブヘルスに関するテストの正答率が 70%以上である。 ⇒ほぼ達成 事前テスト（200 人）の正答率 44%に対して、事後テスト（170 人）では正答率が 69%に向上した。</p>
<p>(4) 持続 発展性</p>	<p>事業期間の終了時に、対象 4 校のピアリーダー、学校教員、保健所スタッフに加え、本事業の先行案件であるダンリ市山間部におけるリプロダクティブヘルス推進事業の対象者であったピアリーダーや学校教員、保護者も招いて会合を実施し、本事業の振り返りおよび各地における思春期リプロダクティブヘルスに関する活動について経験を共有した。先行案件の対象者は、現在も校内活動でリプロダクティブヘルスに関するパンフレットを配布して他の生徒へ働きかけ等を継続しており、その報告により本事業の対象者は、1 年後に事業が終了した後の活動について、具体的なイメージを持つことができた。特に、2 年目の活動において重視している、山間部に住む学校へ通っていない思春期層への働きかけについて、ダンリ市山間部における彼らの活動経験が参考になった。対象校に設置されたピアルームは、校内では教師、生徒ともに認知が進み、利用者数も増加してきている。今後も思春期層が必要な時期に、リプロダクティブヘルスに関する情報やサービスを受けることを希望し、また適切に受けられるよう、思春期層自身の知識を高めていくとともに、保健所や思春期クリニックへの紹介体制を強化していくことで、事業終了後の持続発展性を確保する。</p>